

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K13301

研究課題名（和文）カンボジア国境地域の女性移住労働者にみる社会的包摂の論理に関する研究

研究課題名（英文）A Study of Social Inclusion: The Cases of Woman Migrant Labours in Cambodian Border Areas

研究代表者

島崎 裕子 (Yuko, Shimazaki)

早稲田大学・社会科学総合学院・准教授（任期付）

研究者番号：90570086

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：カンボジアにおける移住労働は日常のものとなっており、性規範に基づいたジェンダー意識から移住を余儀なくされる女性が後を絶たない。本研究では、国境地域の集落に居住する単身移住者、母子世帯者、人身売買被害者、家族移住者など多様かつ複雑な背景を持った女性移住者に焦点をあて、以下を考察した。国境地域に移住する女性の類型と越境形態を明らかにし、女性居住者らの社会環境分析を行い、同地域内における社会的包摂のあり方（論理）を捉えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義ならびに社会的意義として、周縁化された女性たちの動態を捉え、“共同体の類型と包摂のあり方”を明らかにすることは、彼女たちをつなぐ関係性、さらにはコミュニティ形成のロジックなどを捉えることにつながる。それは、メコン河流域諸国内や、今後想定される移住労働の多様化、ならびに脆弱な立場に置かれた人びとの移動に関連する対策に有効な視点が提示できると考える。

研究成果の概要（英文）： In Cambodia where migrant labour is a commonly recognized practice, there does not seem to be an end to migration by women with no other options but to migrate. This is partly because gender consciousness is deeply affected by the gender norms unique to Cambodian society. These woman migrants present a variety of personal and social backgrounds with different details connected with each other in a complicated way. By focusing on these women, living in villages in the border areas, this study attempts to consider and illustrate the subject matters: first, the types of women who have migrated to the border area and the actions they took when they crossed the border; second, an analysis of the social environment for these women; and finally, a study of how social inclusion in the border area is and ought to be.

研究分野： 開発学、社会開発

キーワード： ジェンダー 移住労働 カンボジア

カンボジア国境地域の女性移住労働者にみる社会的包摂の論理に関する研究

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始当初のカンボジアにおける人の移動のダイナミズムをみると、従来の農村から都市部へという人の移動のみならず、「国境地域」を介したり、そこから発する越境の存在がある。さらに、国境地域には、農村を押し出された生活困窮者、女性単身者、母子世帯者、人身売買被害者といった、カンボジア国内においてより脆弱な立場に置かれた人びとが集まる傾向があった。したがって、従来の農村を起点とした出稼ぎという特定視点のみの研究では分析方法が限定され、移動を通じて見えてくる脆弱者にもたらされている移動の現象を捉えきれていなかった。

(2) 研究開始当初までに申請者が行った移住労働の調査結果では、カンボジアにおける移住労働には性規範が強く作用し、男女双方には出稼ぎにまつわる期待度が異なり、脆弱な立場におかれている女性に対しては、より強く出稼ぎが促され、また当事者もその期待や規範に抑圧されている一面が見て取れた（平成 26 年度-28 年度/若手 B）。したがって男女双方にもたらされている移住労働ではあるが、男女に表れる出稼ぎの特徴性が異なることなどを踏まえ、国家、地域、ジェンダーといった諸要素がどのようにカンボジアにおける人びとの移動に影響するのかという研究の必要性が求められた。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ本研究の目的は、「国境という局地的な場所に集まる脆弱な立場におかれた女性の移動に焦点を当て（人の限定）」、「地理的に限定化された特色性のある『国境地域』に着眼し（異質な地理的空間への着眼）」、「脆弱者らによって再構築されるコミュニティの存在を可視化する（当事者にみる社会的包摂概念の提示）」ことにある。以下が具体的調査目的である。

(1) 移動プロセス/動態の解明

コミュニティを形成している「個」を捉えるために、女性たちの動態調査を行い、国境地域の女性居住者の類型と共通項をまとめることを目的とした。動態調査では、①どのようなプロセスで女性たちは国境地域へと引き寄せられたのか、②そして現在の生活状況や越境の形態、③移住前後の個人の変化の有無等についてはかることを掲げた。

(2) 国境移住地における社会環境の分析

女性たちの国境居住地における社会環境を把握するために、年齢、経済要因、社会要因、ネットワーク、共同体意識などの側面から多様に分析を行うことを目的とした。女性たちの国境移住地における社会環境を把握することで、日常の空間における特徴性や、個人事情を捉えるだけでなく、集団としての類型を検証することも出来ると考えた。

(3) 社会的包摂の論理の提示

ジェンダーの視点に配慮した国境地域コミュニティにおける社会的包摂のあり方の検討。従来、社会的包摂は、移住労働先から農村に戻った時の社会的包摂（再統合/Reintegration）に目が向けられたきた。しかし、国境地域には、農村には戻らない/戻れない選択肢を持った女性たちや、多様な背景をもった住民らで形成される集落/コミュニティがある。そこにみる当事者から創出される社会的包摂モデルの提示を研究の最終ゴールとした。

3. 研究の方法

本研究は、フィールド調査を通じて、インタビュー調査（半構造化面接）、参与観察の質的調査を行い、これらの調査結果から事例考察を行った。インタビュー調査対象者は、移住女性や、居住地における村長を含めたキーパーソン、国境地域にある移住者集落住民、支援 NGO 現地スタッフらに対して行った。同じ集落/コミュニティ居住者らにも女性移住者に対する住民意識調査を展開し、複眼的な視点から環境を分析し深化させた。

4. 研究成果

(1) 国境居住地における女性たちの社会環境

女性たちの出身村から現在までの動態調査を、タイとカンボジアの国境地（陸路）の国境周辺地域の移住者コミュニティで調査を遂行した。従来の国境居住地の出稼ぎを目的とした人々が集まる傾向が強かった集落では、「単身型移住労働」世帯が主流だったが、現在では親族や家族、同じ出身村などからの「呼び寄せ型移住労働」や移住労働世帯の二世（二代目）の若年労働世帯も存在していた。つまり、単身型と幼少の子どもを含めた家族・親族同居型といった多様な移住者コミュニティ集落に変遷していた。また、収入状況や労働形態は、隣国タイへの「日雇い型労働

働」、「数日間の滞在型労働」、「数週間の短期滞在労働」、「数か月（3か月以内）の長期労働」など多様な分類がうかがえた。若年層は長期型労働移住形態に従事している傾向が強かった。しかし、労働環境や収入状況は、雇用主によって大きく異なり、安全とは言い難い労働環境でおかれていることも少なくなかった。また労働賃金は、最低賃金、あるいはそれ以下にある場合も散見された。事例のなかには、人身売買の構成要件に重なるケースもあり、安全とは言い難い実態も浮かび上がった。また女性たちには、カンボジアにおけるジェンダー規範を特徴とした移住者意識が明らかとなった¹。これらの結果から、国境地域へと移住を選択する人々の背景と現状、脆弱性が明らかになり、現存の支援からもれてしまう、カンボジアにおける脆弱な立場におかれた女性の支援の再考につながった。

（2）「共同体意識」と「ネットワーク形成」

社会的包摂を紡ぐ論理の諸要素を捉えるために、女性移住者ならびに当該集落住民らに対して「コミュニティ意識/共同体意識」や「ネットワーク形成」に関する調査を実施した。カンボジアにおけるコミュニティ意識は、相互扶助のあり方、さらにカンボジア人の意識として重要な意味をもつ儀礼行事（宗教行事、正月等）に誰とどこで過ごすのかといったことからみることが出来た。カンボジア国境地域の出稼ぎ移住者らによって形成された集落では、地縁、血縁、経済ネットワークといった多様な要素が絡み合いながらコミュニティの形成がなされていた。そして、そこには国境地域特有の問題に対して自分たちはどのように対策を講じているのか、住民らのなかにみえる情報共有の方法や、意思決定のあり方なども把握できた。

以上が、現地調査を踏まえた調査結果の概要である。

1： 島崎裕子「反人身売買対策に探るアジア的視点—ジェンダーとの関係に着目して」編著：山田満・本田美樹『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築』pp153-173, 明石書店, 2021年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yuko SHIMAZAKI
2. 発表標題 Gender Analysis of Migration in Cambodia
3. 学会等名 International Institute for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko SHIMAZAKI
2. 発表標題 Gender Issues Concerning Migrant Labor in Cambodian Agricultural Communities
3. 学会等名 the 79th Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Yuko Shimazaki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 182
3. 書名 Human Trafficking and the Feminization of Poverty (Hardback)	

1. 著者名 Yuko Shimazaki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 182
3. 書名 Human Trafficking and the Feminization of Poverty (eBook)	

1. 著者名 島崎裕子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 260 (担当章153頁 - 173頁)
3. 書名 『反人身売買対策に探るアジアの視点 ジェンダーとの関係に着目して』 編著:山田満・本多美樹 『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築』	

1. 著者名 島崎裕子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 人身売買と貧困の女性化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------